

～広島県の男女共同参画をすすめる会がお贈りする映画祭～

おかあさんの 被爆ピアノ

被爆しても
ピアノの音色は
変わらなかつたのです



佐野史郎 | 武藤十夢 (ARB48) | 森口瑠子 | 宮川一朗太 | 大桃美代子 | 南寿あさ子 | ホセイドン・石川 | 谷川賢作 | 鎌滝えり

監督・脚本: 五藤利弘 1時間53分 / ©2020映画「被爆ピアノ」製作委員会

2020年(令和2年)

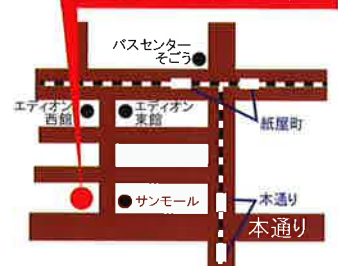
日時 **9月21日(月)** ① 10:30～ (9:45開場)
② 14:00～ (13:30開場)

会場 **広島県民文化センター ホール**

広島市中区大手町1丁目5-3

全席自由 **1,200円** *チケットは、エディオン広島本店プレイガイド(東館9F)にて
8月1日より発売開始

広島県民文化センター



主催: 広島県の男女共同参画をすすめる会
共催: 公益財団法人広島県男女共同参画財団
後援: 広島県 中国新聞社
協力: 広島市地域女性団体連絡協議会
シネマキャラバンV.A.G 中国放送

【お問い合わせ】10:00～16:00(平日のみ)
広島県の男女共同参画をすすめる会
☎ 080-1913-3557(佐藤)
E-mail d5d3m5@bma.biglobe.ne.jp (西中)

おかあさんの被爆ピアノ



Introduction

昭和20年8月6日8時15分…

広島に投下された一発の原子爆弾。
街と共に一瞬にして消えたたくさんの命。

そうした壊滅的な状況の中で
奇跡的に焼け残ったピアノ。被爆ピアノ…
それを託された広島の調律師・矢川光則さんは、
修理・調律、自ら4トトラックを運転して
全国に被爆ピアノの音色を届けて回ること。

「70年経って被爆体験者は段々いなくなっていて、
あと10年したら殆どいなくなる。けれど、被爆ピアノ
は、その音色でずっと原爆のことを伝えていくこと
が出来る」と矢川さん。

被爆から75年を迎える今、
ピアノの音色で被爆の記憶を伝えていきます。



「世を超えて伝えられるメッセージと調べ。
忘れてはいけない大切な想い。」

沢山の若者たちに観てもらいたい、
心が優しくそして強くなる映画だ。」

プロモーター
クラーク記念国際高等学校 校長
三浦雄一郎

75年目のいま、蘇った音色が私たちに語りはじめ



昭和20年8月6日に広島で被爆したピアノを持ち主から託された調律師・矢川光則(実野史郎)。彼自身も被爆二世。
爆心地から3キロ以内で被爆したピアノは被爆ピアノと呼ばれる。
矢川は、現在数万台の被爆ピアノを託され修理、調律して、それを自ら運転する4トトラックに載せて全国を回っている。
東京で生まれた江口菜々子(武藤十夢)は大学で幼児教育を学び幼稚園教師を目指しているものの将来について漠然としている。
被爆ピアノの一台を母・久美子(和川りょう)が寄贈していたことを知った菜々子は、被爆ピアノコンサートに行き、矢川と出会う。矢川を通して被爆ピアノ、広島のことを考えるようになり、祖母のことを知るうちに自身のルーツ探しをしていく。

母・久美子はどうして広島から出て行ったのか?
祖母・千恵子が菜々子に伝えたかったことは?
調律師・矢川がなぜ被爆ピアノを伝える活動をしているのか?
菜々子はルーツを通り、被爆ピアノの活動を通りながら次第に何かを見つけていく…。

Story



戦後75年目。被爆から75年。自分を含めて今社会を担っている大人たちの殆どが戦後生まれになっています。戦争を知らない僕らは平和を当たり前のように享受してきました。しかし、当たり前だと思っていた平和は当たり前ではないことをここ数年の世界情勢の不安、国内で度重なり起こる災害などから強く感じるようになりました。今更ながら平和をとほざっと維持しようと思いついていないと平和ではなくなってしまうのではないかと思うようになっていました。そのためには僕らが後進の若い人たちに語り継がなくてはならないと強く思うようになりました。そのきっかけは11年前に被爆ピアノのドキュメンタリー番組を撮らせて頂いたことでした。取材をさせて頂くうちに原爆が落とされたことや平和について考えるきっかけになるような映画をつくりたいと思いました。忘れないこと、記憶し続けること、そして伝えていくこと、そうしたことを思い起こして頂くような映画になっていたら本望です。(監督 五藤利弘)



【お願い】 会場内手指消毒のアルコールを設置しています。
感染症防止対策のため、マスクの着用をお願いします。また、「咳エチケット」へのご協力をお願いします。
咳や発熱(37.5℃以上)など、風邪に似た症状がある方、体調不良の方はご遠慮ください。
お席は、前後左右間隔を空けてお座りいただけるよう、お席にゆとりを持っています。
安心して映画をご覧いただくために、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

